

# 総合診療科専門研修プログラム

## 診療科の特色

### はじめに

ひとを診る医師になろう。

医師として「ひとを診る」時、その背後に価値観や家族、地域など様々なものが見えてきます。病院はそのほんの一部に過ぎず、様々なセッティングの中で、新しい「生」から、来るべき「死」を迎えるその時まで、ひとの生は連綿と続きます。ひとを診ることのできる臨床家となるためには、生死を見据え、個々の幸せを中心においた医療の研修・実践が欠かせません。

それは、地域医療を担う医師のみに限らず、臓器別専門科へ進む医師も、そのキャリア形成の上で必須な過程であると考えます。



総合診療科特任教授 関口健二

### どうして専門研修で総合診療科なの？

初期研修ではあくまでも基礎中の基礎を築いたに過ぎず、高齢化、医学の発展とともに複雑化する医療のニーズに対応し、トータルに患者を診て、責任ある医療を提供することのできる医師となるために、それに続く専門研修の大切さは、どれだけ強調しても強調しすぎることはありません。

総合診療科では、多臓器・複数の疾患を抱える患者に対して、内科全科にわたる標準的管理、責任のある医療を提供することのできる医師養成を目標とし、若き医師のより良いキャリア形成を応援します。

### 私の、僕のなりたい専門、もう決まってるんですけど！？

志向する将来の専門領域の如何に関わらず、一般的に見られる疾患、症状の患者を全人的に管理するための幅広い知識と技能を修得することを目標としています。また、怒らず威張らず協調の中でチームとして働く習慣、上級医の言うことを鵜呑みにせず積極的なディスカッションの中で患者にとって最良の医療を提供していく態度など、医師にとって必須な基本的品性・能力の養成も目標としています。

全人的な患者の診かたを学ぶことは、臓器別専門家となった後も、問題を抱えた患者が目の前に現れたとき、「当科的に問題なし」を超えた、本当の問題解決ができる医師となるための礎作りでもあります。

### ジェネラルに診れる医者にはなりたいけど、3年間はちょっと長いわ...

総合診療科の目指す教育は二種類あり、それを可能にするために、二つの教育様式を用意しています。ひとつは、地域で二次医療の要として、全人的管理を責任もって実践できる、専門医としての総合診療医を養成するためのトレーニング「総合診療専門研修プログラム」、もうひとつは、キャリアゴールは臓器別専門家であるが、ジェネラルマインドを持って全人的医療を提供できる医師となるための礎作りをするためのトレーニング「病院総合診療研修プログラム」です。

前者は原則3年間、後者は1年間で研修期間としています。また、所属を変更しないままの3～6ヶ月間の短期研修も受け入れています。それぞれの興味、キャリアゴールに合わせて、柔軟に対応します。研修を希望する人も、キャリア形成を決めかねている人も、気軽に相談してください。若き医師のより良いキャリア形成は、私たち総合診療科の願いでもあるのです。

## 専門研修の魅力

1. 徹底した屋根瓦式教育体制により、随時、教育・フィードバックを受けることができる。また、自身も後進への教育の責務を持って診療に当たる！

2. 1次、2次救急症例を豊富に経験することができる。また、指導医とともに初療にあたることで、症候学的アプローチを効率的に学ぶことができる！

3. 自分が初療に当たり入院になった症例は、そのまま担当となって管理に当たる。初療

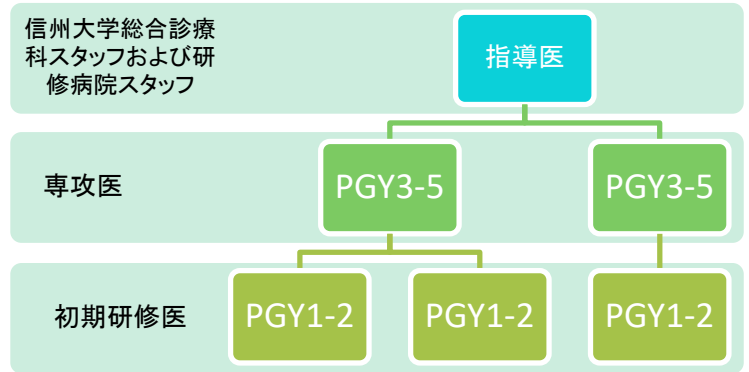
から退院まで、更には在宅診療も担当することが可能であり、一貫して受け持つことで、疾患のみに囚われず、医療セッティングにも囚われない、継続的な全人的アプローチを身につけることができる！

～二次医療圏完結型の研修プログラムであるため、施設間の指導医の交流も盛んであり、施設は違っても3年間を通じて一貫した研修を受けることができます。また、3年間の継続外来、地域に根ざした地域医療改善プロジェクトも中断することなく行なう事ができます。

4. 米国内科専門医・老年内科専門医とのマンツーマン指導により、標準的高齢者医療を学ぶことができる。また、家庭医療専門医とのマンツーマン指導により、標準的家庭医療を学ぶことができる！

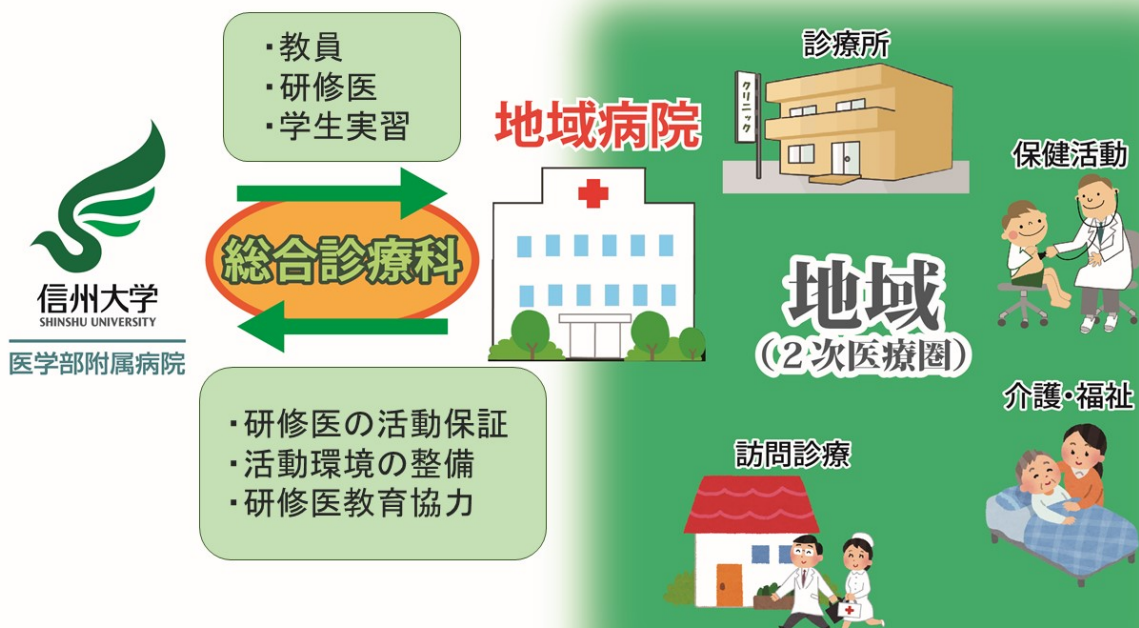
5. エレクティブ(選択ローテーション)を希望に応じて構築できる！

～信州大学のみならず、内視鏡、エコー、産婦人科、離島、診断推論学、海外(ハワイ大学)など、自分の興味・キャリアゴールによってカスタマイズすることが可能。



地域教育病院でのチーム医療体制

## 地域病院を軸とした地域医療教育



## 研修カリキュラム【北アルプス総合診療専門研修プログラム】

研修期間：3年間または4年間（病院総合診療研修は1年間）

※日本専門医機構の指導により、プログラム内容は変更される可能性があります。

プログラム構成病院の概要（研修中に派遣される病院の指導体制など）

【必修】	総合診療科	市立大町総合病院 総合診療科
		国保健康保険八坂診療所 または 国保健康保険小谷村診療所
	内科	安曇野赤十字病院 呼吸器／循環器／消化器／脳神経
	救急部	安曇野赤十字病院 救急部
	小児科	市立大町総合病院 小児科
	継続外来診療	市立大町総合病院 総合診療科
【選択】	内科	厚生連北信総合病院 呼吸器／循環器／消化器／脳神経／腎臓
	小児科	厚生連北信総合病院
	産婦人科	厚生連北信総合病院
	精神科・心療内科	北アルプス医療センターあづみ病院
	整形外科	北アルプス医療センターあづみ病院
	リハビリテーション科	（各病院）
	皮膚科	（各病院）
	診断推論	信州大学医学部附属病院 総合診療科
	海外研修	（USMLEなどの自主的な事前準備が必要。4年間コースのみ）

研修予定

### 【3年間コースの1例】

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
1年目	総合診療Ⅱ（大町）			小児科（大町）
2年目	内科（安曇野赤十字）			救急（安曇野赤十字）
3年目	総合診療Ⅰ（診療所）		選択科①	選択科②

### 【4年間コースの1例】

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
1年目	総合診療Ⅱ（大町）			小児科（大町）
2年目	内科（安曇野赤十字）			救急（安曇野赤十字）
3年目	総合診療Ⅰ（診療所）		選択科①	選択科②
4年目	大町病院または診療所（チーフレジデント）			

## 【研修の流れ】

- 本研修プログラムは、卒後年数を問いません。研修期間は3年間または4年間です（病院総合診療研修は1年間）
- 2年次修了時
  - ✓総合診療専門研修Ⅰ（外来診療・在宅医療中心）6ヶ月間、総合診療専門研修Ⅱ（病棟診療・救急診療中心）6ヶ月間、小児科 3ヶ月間、救急科 3ヶ月間を修了します
  - ✓年齢・性別・疾患を問わず、頻度の高い症候・疾患に対する標準的アプローチ、健康問題に対して、病気の背景や人間関係を理解して行なう全人的アプローチができる診療技能の修得を目標とします
  - ✓EBMに基づいて、当該患者へ適用していく診療技能を修得します
- 3年次修了時
  - ✓医療セッティング（病院、診療所、訪問診療など）に応じた診療技術のレベルを高めていくとともに、地域のニーズを理解して、予防医学や福祉にかかわる地域の問題に継続的に貢献することができる、地域のリーダーとしての能力修得を目標とします
  - ✓地域医師会との活動を通じて、地域の実地医家と交流することで、地域包括ケアへ参画し自らの診療を支えるネットワーク作りを学びます
  - ✓総合診療の様々な理論やモデル、組織運営マネジメントを学び、所属施設のリーダーとしての能力修得を目指します
  - ✓カンファレンスでのファシリテーターとしての役割、公的な学会や研究会への積極的な参加や企画運営、指導医としての効果的な教育、に取り組むことも求められます
- 専門研修における研究
  - ✓専攻医は学術活動に携わる必要があり、学術大会等での発表（筆頭に限る）及び論文発表（共同著者を含む）を行うことを原則としています
  - ✓信州大学医学部附属病院総合診療科と連携しながら、臨床研究に携わる機会を提供されます。研究発表についても経験ある指導医からの支援が提供されます

## 【研修の週間計画】

	朝	午前	午後	夕
月	新入院 カンファレンス	病棟総回診	病棟業務	
火	身体診察勉強会	病棟業務	救急外来	救急対応勉強会
水	症例検討会	病棟総回診	病棟業務 多職種カンファレンス	ジャーナルクラブ
木	病棟カンファレンス	病棟業務	病棟業務	家庭医療勉強会
金	モーニング カンファレンス	総診・救急外来	総診・救急外来 病棟回診	心不全勉強会または 神経内科勉強会
土	各種勉強会やセミナーあり			

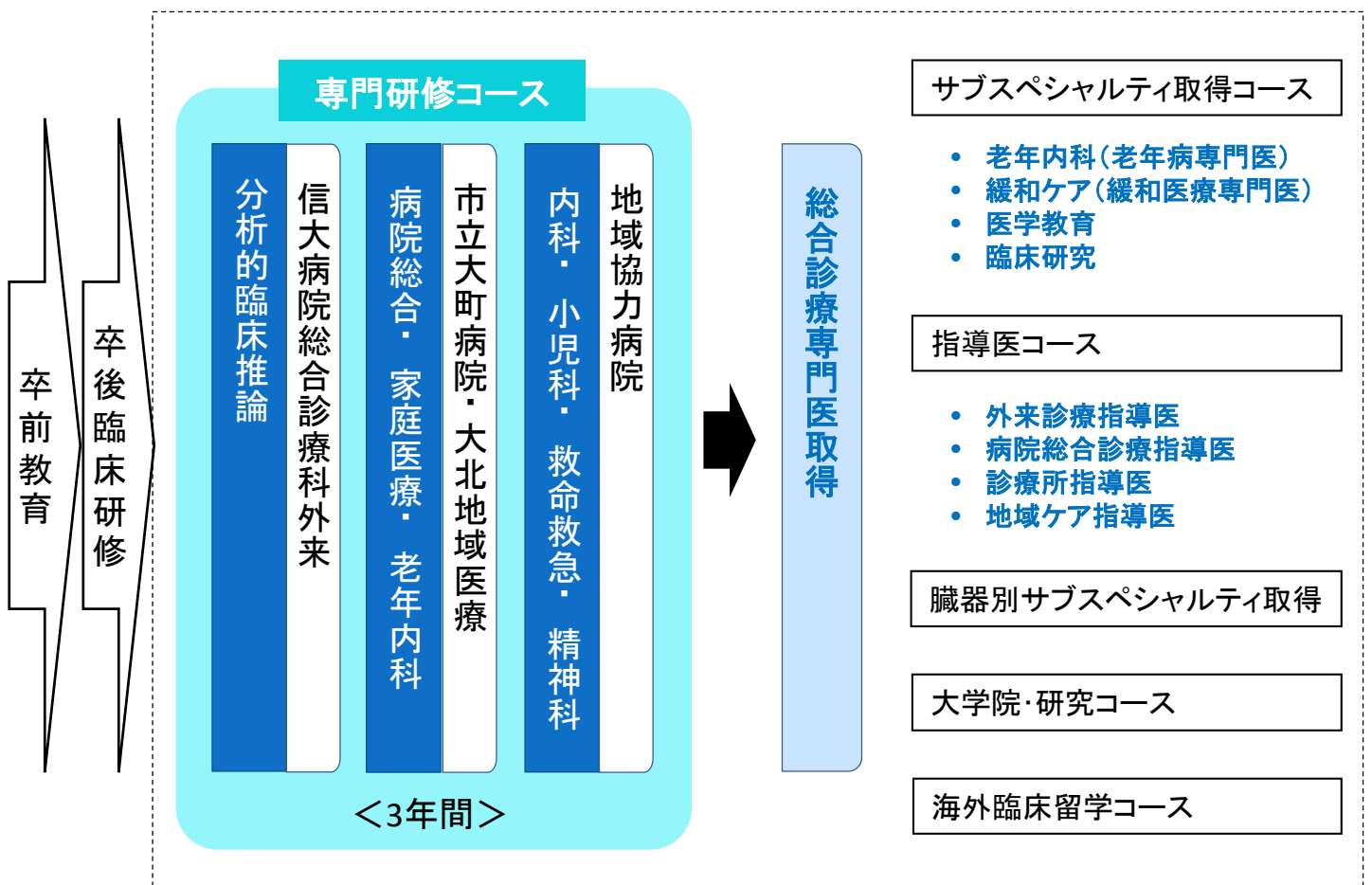
研修協力病院ローテーション 週間予定の一例

	月曜日～金曜日	土曜日
7:00-8:00	プレ回診	
8:00-9:00	勉強会／症例検討会／カンファ	病棟回診、診察、 家族へ説明 (第2、4土曜日)
9:00-12:30	救急総診外来／病棟回診	
13:30-16:00	診察、手技、訪問診療、家族へ説明	院内行事
16:00-17:00	病棟回診、振り返りカンファ	
17:00～	ジャーナルクラブ、カンファ、院内行事	

研修協力病院ローテーション 一日の予定

## サブスペシャリティ・学位取得の道筋

総合診療専門研修コース(3年間) 募集(人数4名) ※信州型総合医を含む  
病院総合診療研修コース(1年間) 募集(若干名)  
コース責任者: 総合診療科長 関口健二



## 取得できる専門医、資格など

3年間の総合診療専門研修プログラムの後、家庭医療専門医の受験資格を取得できます。  
また、2018年度以降の新専門医制度下において、総合診療専門医(予定)の受験資格を取得できます。

## 将来の就職先など

当科研修終了後の進路には、以下のような選択肢があります。

- 地域の研修病院や診療所で、指導医として後進の教育を行いながら、地域医療に従事する。
- 総合医としての研鑽を積むため、卒前卒後教育のエキスパートになるため、臨床研究を実践するため  
或いは老年内科・緩和ケアの研鑽を積むために、信大病院総合診療科スタッフとなる。
- 専門医のトレーニングに移行する。
- 臨床疫学を学ぶコースに進学する。
- 大学院に進学する。
- 海外臨床留学 など

研修終了後にそれぞれの興味や希望に応じて、自分自身が満足できるキャリアパスを踏んでいくことができるよう最大限の支援をします。

## 国内留学・海外留学

総合診療専門研修プログラムの期間中に、最大6ヶ月間(3ヶ月間×2)までの選択研修のうち、3ヶ月間は場所・機関を問わない選択研修ができます。コーディネーターと協議のうえ希望を調整し、先方の受け入れが可能であれば、信州大学関連施設だけではなく国内・国外どこでも研修することができます。自分の興味ある領域、将来のキャリアに向けて必要とされる領域などについて研修できるよう、最大限の援助をします。

## 他の専門研修プログラム在籍者の受け入れなど

他科、他施設での専門研修コース在籍者で、当科での研修を希望する医師に加え、一定期間離職していた医師の復職のための研修も歓迎します。

最低3ヶ月間以上で、研修場所は各人の目的や興味に応じて決定されます。

総合診療的視点を持って全人的医療を提供できる医師となるための礎作りをするための短期研修です。

身分・雇用形態などは、その研修期間によって異なりますが、本人と所属研修プログラムまたは所属医療機関と調整をして決定します。

他の専門領域からの変更や、医学部卒業後、年数がたってからの専門研修の開始も歓迎します。

## 信州型総合医養成プログラムとして認定

当プログラムは、「信州型総合医養成プログラム」として長野県の認定を受けています。

「信州型総合医」とは、「健康長寿を支える地域保健医療活動をよく知り、患者の全身を幅広く診療できる医師」のことをいい、患者やその家族とのコミュニケーションを大切に、地域の保健・医療・福祉の関係者と連携し、チーム医療を実践します。



## 連絡先

信州大学医学部附属病院 総合診療科 (事務 才竹)

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話: 0263-37-3591 ■FAX: 0263-37-3215

■E-mail : soshin@shinshu-u.ac.jp

■U R L : <http://www.shinshu-generalmedicine.jp>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修 [総合診療科]

